

## 5. 都市福利施設を整備する事業に関する事項

### [ 1 ] 都市福利施設の整備の必要性

#### 現状分析

中心市街地には、対象学区である中学校はないが、福島市立第一小学校、第二小学校、第三小学校、第四小学校、清明小学校、福島大学附属小学校、福島県立福島高等学校、橘高等学校、桜の聖母短期大学、福島学院大学駅前キャンパス、福島看護専門学校、福島県立盲学校、聾学校等があり、教育施設は充実している。

文化施設は、福島市民会館、福島市立図書館、福島市公会堂、中央学習センター、こむこむ館、ふれあい歴史館、花の写真館、コラッセふくしま、市民ギャラリー、御倉邸等が立地している。

中心市街地内では、福島県立医大附属病院及び済生会福島総合病院が郊外へ移転し、現在、総合病院は大原総合病院のみであり老朽化している。他に、外科、内科、歯科、産婦人科等の医院がある。

福島市保健福祉センター、福島県中央児童相談所、福島市少年センター等があるが、高齢者社会福祉施設の立地は少ない。

#### 事業の必要性

##### 【教育文化施設】

教育施設については、中心市街地内や近接する地区で主要な教育施設が概ね充足しているが、文化施設は、今後の高齢化の進展や定年退職者等の増加を踏まえた様々な活動ニーズに対応する場を整備し、中心市街地における賑わいの創出につなげる必要がある。

既存の施設については、建て替え時に中心市街地内への整備を優先的に検討することとし、今後必要に応じて新たな教育文化施設の整備を検討する。

##### 【医療施設】

高齢者の居住環境向上を図るために高齢者向け住宅とセットになった医療施設を充実させ、高齢者が安心して暮らせる環境整備を図る必要がある。

既存の医療施設については、老朽化に伴う建て替え時に中心市街地内への整備を誘導、誘致に取り組み、支援を検討する。

#### フォローアップ

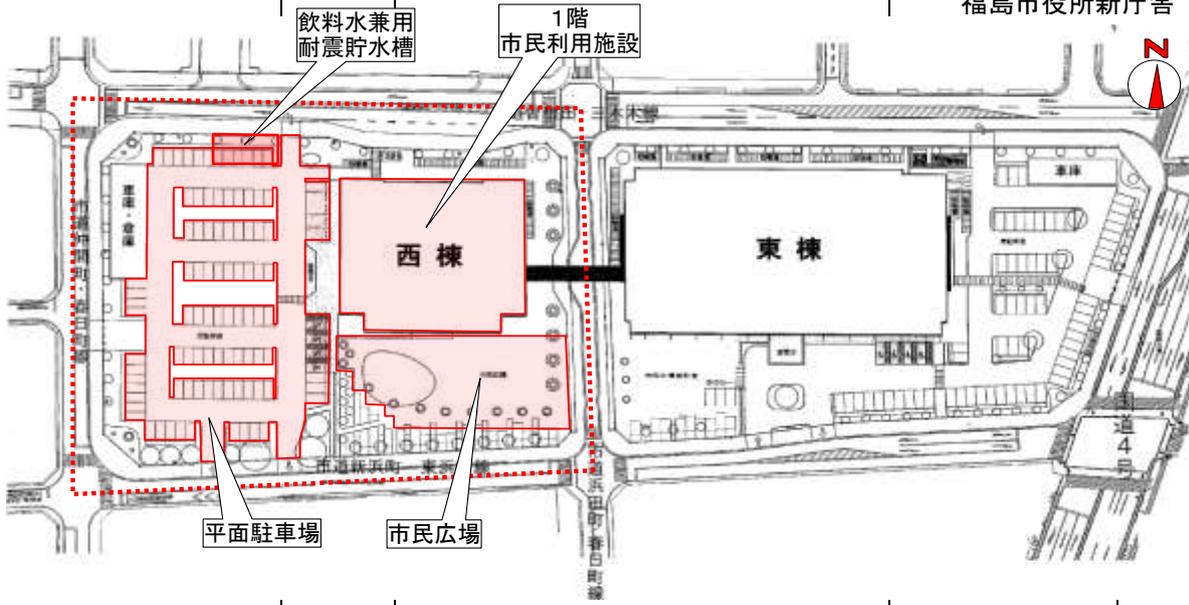
年に一回、基本計画で位置付けた取組の進捗状況についての調査を行い、目標指標への到達状況を把握しながら、必要に応じて適切な措置を講ずる。

[2] 具体的事業の内容

(1) 法に定める特別の措置に関連する事業

- ・該当なし

(2) ①認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p><b>事業名</b> 五老内町地区暮らし・にぎわい再生事業</p> <p><b>内容</b> 市役所新庁舎西棟内に市民が利用できる多目的広場及び託児スペースを設ける 西棟RC地上6階建多目的ホール、談話・託児スペース</p> <p><b>実施時期</b> 平成22年度～平成26年度</p>	<p>福島市</p>	<p>市役所庁舎は建設から50年以上が経ち、老朽化していることから、市民利用施設等懇談会をはじめ、地域の方々とまちづくりの視点で広く意見を聞き、「まちづくりの重要な核」のひとつとして、新庁舎の建設を進めてきた。新庁舎西棟の1階には交流の場となる会議室やホール、広場、託児スペースを整備し、賑わいの創出に寄与する事業である。</p>	<p><b>支援措置</b> 社会資本整備総合交付金 (暮らし・にぎわい再生事業(五老内町地区))</p> <p><b>実施時期</b> 平成22年度～平成26年度</p>	
		 <p>福島市役所新庁舎</p>		

<p><b>事業名</b>        曽根田西地区        暮らし・にぎわい        再生事業</p> <p><b>内容</b>        中心市街地の空き        ビル等を新たな集        客施設として再整        備する        公共施設：アクティ        ブシニアセンター        (A・O・Z[アオウ        ゼ])        商業施設等</p> <p><b>実施時期</b>        平成21年度～        平成22年度</p>	<p>(株)福島        まちづ        くりセ        ンター        福島市</p>	<p>福島駅の北側に位置する曽根        田西地区において、平成10年に5        階建ての商業施設が完成し百貨        店等の入居により賑わっていた        が、平成17年に百貨店が撤退し        たことにより1階から4階が空き        ビルとなった。土地建物所有者が        テナントの誘致を行ったが、見通        しが得られないことから、市が利        活用に関与し建物の4階部分に公        共施設の入居を行う。</p> <p>公共施設については、福島駅南        側にある「こむこむ館」が子ども        の夢を育む施設であるのに対し、        団塊世代の生涯学習の場となり、        世代間の交流ができるような施        設を整備する。また、公共施設の        施設利用者を見込み、入居する店        舗を誘致し再生することにより、        街なか居住者の利便性向上や新        たな集客を生み賑わいの創出に        寄与する事業である。</p>	<p><b>支援措置</b>        暮らし・にぎわ        い再生事業</p> <p><b>実施時期</b>        平成21年度</p>
<p><b>事業名</b>        早稲町地区        暮らし・にぎわい        再生事業</p> <p><b>内容</b>        救急・夜間診療        介護老人福祉施設、        高齢者専用住宅、        専門学校、保育園、        店舗の複合施設整        備</p> <p>賃貸住宅 55戸</p> <p><b>実施時期</b>        平成22年度～        平成26年度</p>	<p>(有)        グリー        ンアカ        デミー</p>	<p>当地区は中心部の南側に位置        し、県庁・こむこむ館などと近接        し、一番丁商店街として小売店や        飲食店が立ち並んでいる。</p> <p>また、古くから住宅がある一        方、近年はマンションが多く建設        されるなど世帯数の多い地域で        あるが、住民の高齢化や老朽化し        た店舗併用住宅があり、空き家・        空き店舗または解体され駐車場        になるなど低未利用地の増加が        みられる。</p> <p>本事業により、中心市街地での        医療並びに救急医療の充実や介        護福祉の充実を図るとともに、雇        用の創出・高齢者に対する居住環        境の向上につながり、賑わいの創        出に寄与する事業である。</p>	<p><b>支援措置</b>        社会資本整備        総合交付金        (暮らし・にぎ        わい再生事業)</p> <p><b>実施時期</b>        平成22年度～        平成26年度</p>

<p><b>事業名</b> 仲間町地区 暮らし・にぎわい 再生事業</p> <p><b>内容</b> 市民ギャラリー、 カフェスペース、 金融機関、医療施設 等の整備</p> <p><b>実施時期</b> 平成22年度～ 平成26年度</p>	<p>(社) 福島県 労働者 福祉基 金協会</p>	<p>当地区は中心部の東側に位置し、近隣には新浜公園・福島市公会堂・図書館・中央学習センター等の公共施設が立地している。また、古くから住宅がある一方、マンションも多く建設されている世帯数の多い地域でもある。しかし、公共・文化施設等が立地しているものの、待ち合わせや施設利用後の交流の場がないことから、本計画により公共・文化施設との連続性を考慮した、パブリックミニパークや市民ギャラリー及びカフェスペースを整備し、憩いの場を提供する。また、文化・公共施設利用者の駐車場を提供し、利便性を高めることにより各施設の利用者の増加が見込め、賑わいの創出に寄与する事業である。</p>	<p><b>支援措置</b> 社会資本整備 総合交付金 (暮らし・にぎ わい再生事業)</p> <p><b>実施時期</b> 平成22年度～ 平成26年度</p>
<p><b>事業名</b> 上町地区 暮らし・にぎわい 再生事業</p> <p><b>内容</b> 医療施設の整備 RC造、免震構造 地上8階建 病床数 350床</p> <p><b>実施時期</b> 平成24年度～ 平成28年度</p>  <p>大原総合病院イメージパース</p>	<p>(財) 大原綜 合病院</p>	<p>当地区は周辺に福島県庁や福島警察署などの公共施設をはじめ、銀行や小売店が立ち並び商業地域となっているが、商業施設や病院、バスターミナル等の移転により、空き店舗・低未利用地が増加しており商店街の衰退化がみられる。また、大原総合病院は、中心市街地内に唯一ある総合病院として地域医療を支えているが、老朽化に加え東日本大震災により被災を受け、早急な建替えが必要な状況となっており、先進医療を導入した拠点病院として期待されている。</p> <p>本事業は、中心市街地内での新築移転により医療の充実や交流人口の増加など、都市機能の基盤強化を図り、まちなか居住環境の促進と賑わいの創出に寄与する事業である。</p>	<p><b>支援措置</b> 社会資本整備 総合交付金 (暮らし・にぎ わい再生事業 (上町地区))</p> <p><b>実施時期</b> 平成24年度～ 平成26年度</p>

<p><b>事業名</b> 児童公園周辺整備事業</p> <p><b>内容</b> 駐車場整備、トイレ整備、管理棟整備等</p> <p><b>実施時期</b> 平成23年度～ 平成26年度</p>	<p>福島市</p>	<p>福島市児童公園は、中心部から東側に位置し、市役所や福島競馬場などと近接している。しかし、開園から50年余が経過し、老朽化に伴う遊具の安全性、駐車・駐輪スペースの不備など問題となったことから、整備検討委員会において再整備検討を行った。市民の憩いの場所として親しまれているため、既存公園について、隣接する旧児童文化センター跡地やせんだん公園と一体的に再整備し、回遊拠点とすると共に、来街者の増加や賑わいの創出に寄与する事業である。</p>	<p><b>支援措置</b> 社会資本整備総合交付金 (都市再生整備計画事業)</p> <p><b>実施時期</b> 平成23年度～ 平成26年度</p>	
<p><b>事業名</b> 児童公園遊具整備事業</p> <p><b>内容</b> 児童公園整備事業に伴う遊具の更新</p> <p><b>実施時期</b> 平成24年度</p>	<p>福島市</p>	<p>児童公園の整備に合わせ、老朽化した遊具を更新し、来園した児童等が安全・安心に施設を利用できることで賑わいの創出に寄与する事業である。</p>	<p><b>支援措置</b> 社会資本整備総合交付金 (都市再生整備計画事業(福島市中心市街地地区))</p> <p><b>実施時期</b> 平成24年度</p>	

(2)②認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業

- ・該当なし

(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

- ・該当なし

(4) 国の支援がないその他の事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	国以外の支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
<p><b>事業名</b> 中心市街地内の医療施設の支援検討</p> <p><b>内容</b> 老朽化した総合病院の移転・建替えに伴う支援</p> <p><b>実施期間</b> 平成21年度～</p>	福島市	過去に中心市街地にある総合病院が郊外に移転し、中心部への来街者の減少を招いたことから、総合病院の老朽化に伴う、移転・建替えの際に、郊外へ移転することがないように支援し、病院を利用する人の交通利便性も含め検討し来街者の増加とまちなか居住の促進に寄与させる。		
<p><b>事業名</b> 市民文化祭の開催事業</p> <p><b>内容</b> 中心市街地を会場とした地域の生涯学習の成果の発表会開催</p> <p><b>実施時期</b> 平成20年度～</p>	福島市	<p>市民文化祭～地域からの発信～として、駅南側にある「こむこむ館」に各学習センター単位で展示ブースを設け、地域の特色と地域の生涯学習の成果を市民に紹介するとともに、合唱・芸能等グループによる発表会を開催する。</p> <p>平成20年度は市内16学習センターから500余点の出展、26団体366名の参加があった。市内市民の文化活動に対する意識の啓発と中心市街地で開催することで交流による賑わいの創出や活性化に寄与する事業である。</p>		
<p><b>事業名</b> 市民生涯学習「市民ステージ」支援事業</p> <p><b>内容</b> 中心市街地にある有料の民間会場を利用した際の使用料に対する補助を行う</p> <p><b>実施時期</b> 平成20年度～</p>	福島市	高齢化社会の到来や団塊の世代の大量退職期を迎え、地域で活動している団体やサークルが増加している。これまで各地域で開かれていた活動発表を中心市街地で行うことで活性化に結びつけるとともに、より一層の学習活動意欲を喚起し積極的な文化活動を支援する。中心市街地にある有料の民間会場を借用した場合に使用料を補助し、交流の場の提供に寄与する事業である。		

<p><b>事業名</b> 「こむこむ館」運営事業</p> <p><b>内容</b> 青少年の多様な活動支援、子どもライブラリー運営</p> <p><b>実施時期</b> 平成17年度～</p>	<p>福島市</p>	<p>都心南地区に位置し、「子どもの夢」を基本テーマとして市民参加型のプログラム展開による多様な世代の交流拠点であり、中心市街地の賑わいを創出する拠点施設として、隣接するNHK福島放送会館と一体的な整備を行い平成17年7月にオープンした。</p> <p>施設の年間利用者が30万人を超え、中心市街地の賑わいの創出に寄与している。年間を通したイベント等を充実させ、交流の場を提供し更なる賑わいの創出に寄与する事業である。</p>		
---	------------	---	--	--